



金紙を貼つて

魚主
10月から12月にかけて鮭油が調理される約
のぼつてする鮭を網で捕る漁師は季節の物
物販ひなどって。横越には、鮭の頭からしつら
まで余すことがなく使った鮭づくしの料理を振
舞う料理店があるんだよ。

モクタヌガニ

が毛で覆われているのが特徴。甘く、カニもそもそも美味しいんだけ



力がヤキ農園直売所
近頃にある約6haの堆肥農園で収穫した野菜、お野菜などを地元市場をモットーに販売しております。夏のとちろい冬のとちろい、冬の長いとちろい、里芋等も人気で、「どうもごこまつりや新富まつり」など季節のイベントも開催しています。



赤坂の公園（阿賀野川フラークーライア）
シーズンごとにたくさんの花が咲くこの公園は「赤坂めがみ公園」と呼ばれています。広いフレリエーションゾーンがあり、トサルコートもあります。バーベキュー広場などが整備され、ディキャンプも楽しめます。

赤羽公園フットサル場
（アカヒキョウン フットサルジヤウ）
（アカヒキョウン フットサルジヤウ）

標榜マップ
ナビゲーター・キャラクター
カグラツチよ

木本派は非常に多い神業が存在します。この神業は福神とい
う通常が多い神業を指します。この神業は福神とい
う福んだ猿様(サンタマラ)を二つ合わせて大きな口
とし、ナスを眼にカボチャを鼻に、熊皮で髪とし、
齒は竹を削り組み合わせて金紙を貼って作られた珍し
い手仕事の象徴です。毎年祭りの際に作られ、地域
の神社や家庭を回り、由や大鼓に合わせて舞を披露し
た後、小金剛像から阿賀野川に流されます。
この神業が登場したのは明治30年頃のことです。
この地区はよく雪崩が切れて氷雪が轟く苦しい生活の
中で、当時雪を買っていたほどにでもあった猿様と
野草、蚊帳などを持ち寄って作成し、大勢の前で威勢
よく滑稽な舞を披露したのが始まりと言われています。
す。
*米菴の西山の口に当てるかひたすら

*米俵の両端の□に当てる丸いふた



わしは水害と闘う
苦しい農民生活の中から
生まれた神楽だグラ！



「法律切れ」などと田郷の一部が水没しながらある洪水被災したことから、1.9.17年（昭和12年）正月～昭和13年（昭和14年）にかけて阿賀野川改修工事が行われました。工事では、新潟河川監査を含めた川幅約900メートルで、河床を浚渫するため、河川敷の約100ヘクタールが失われ、地盤が約30ha）山地区が対岸に切り離されてしましました。また、対岸となった巣山地区のため、通し道による航行が始めされました。

十三瀬と小舟ハ幡富の大ダヤキ（御神木）

十二瀬は阿賀野川が東へ大きく蛇行していた部分が、1.9.17年（昭和12年）の洪水によって本流が変わってしまった三日月谷（古内河谷）の跡地であります。これにより、小舟村と越前村の一部は対岸へ切り離され、「飛び地」となりました。（現在は北野町）

また、1.8.8年（明治15年）に、幡富（北野町）に水没しました大ダヤキ（長さ2.3m、直径3m、高さ1.4m、直径1m以上）として使われたことがわかつています。

は、實になるほどのツバガムシに刺され、烹煎を発して死くなる人が多く、怖くて器物の收穫さえできなかつて泣いていた。妙義寺の住職に毒虫退散の祈願をお願いしたところ、不思議なことにツバガムシに悩まされる者が全くなくなったことから、1838年（天保9）に安産院が建立されました。



* 水谷：「現在の」田代田。その名、阿部解説は、現在の田代田から北側に進むと、西へ大木山を曲がって（豊臣の通路）、信濃川に注ぐ。現在の田代田は、東へ大木山を曲がって（豊臣の通路）、信濃川に注ぐ。現在の田代田のまでは、田代崩れのための水路が、50メートル（約16.5メートル）ほど離れていたものが、翌1711年（享保16）の雪崩で水が流れずに、田代崩れのための水路が、50メートル（約16.5メートル）ほど離れていたものが、翌1711年（享保16）の雪崩で水が流れずに、現在の田代田とともに、一度に雪崩で水が流れなくなったのである。現在の田代田のまでは、田代崩れのための水路が、50メートル（約16.5メートル）ほど離れていたものが、翌1711年（享保16）の雪崩で水が流れずに、現在の田代田とともに、一度に雪崩で水が流れなくなったのである。

九四



おじいちゃん

横越の歴史や 文化をご紹介

卷二